



国民の森林・国有林

林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



局長室にて、新島局長より感謝状を贈呈

九州北部豪雨派遣者が帰任

派遣者の功績に対して、局長感謝状を贈呈

主な項目	○ 中部森林管理局 九州北部豪雨派遣者が帰任	P2
	○ 各地からのたより	P4
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P9
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P10

九州北部豪雨派遣者が帰任

局長感謝状を贈呈

「企画調整課」平成二十九年七月九州北部豪雨」により、山地災害が発生した福岡県朝倉市内の民有林復旧のため、中部局管内の職員で編成された山地災害緊急展開チーム（治山班三名、林道班三名）を現地に派遣して技術支援を行いました。

※治山班は八月七日～十一日の間に民有林の崩壊地・荒廃溪流三箇所、林道班は八月二十五日～九月一日の間に民有林林道四箇所（延べ延長約百五㍎）の調査実施。林野庁全体では延べ二百七十四名が支援。



治山班の現地調査



調査結果の整理と基礎資料の取りまとめ



林道班のドローンによる被災地の写真

復旧のための概算設計に必要な基礎資料の作成が任務であり、具体的には、ド

ローンによる被害地の撮影や簡易測量等の現地調査を実施し、その結果を基に作成した図面等の成果物を福岡県に提出しました。

両班とも八月の猛暑の中、怪我もなく無事に調査を完了することができ、九月二十五日には、派遣者の功績に対して、新島局長から感謝状が贈呈されました。中部森林管理局としては、今後も引き続き災害が発生した際は、被災自治体に対して技術的な支援・助言を行うことで、被災地の復旧・復興に貢献できるように取り組んで参ります。

豪雨災害を想定して 総合防災訓練を実施

「企画調整課」九月一日、中部森林管理



災害対策本部の机上訓練の様子



山地災害対策班の検討の様子

局において、総合防災訓練を実施しました。

今年度は、国内各地で頻発している山地災害への対応能力強化に焦点を絞った内容で、本部活動の机上訓練を実施しました。

訓練は、東濃森林管理署管内で豪雨災害が発生した想定で開始し、局・署の対策本部の設置、県・市の対策本部へのリエゾン（災害対策現地情報連絡員）派遣、ヘリによる上空調査及び山地災害対応チームの派遣等について、シーンを区切りながら行いました。

シーンの区切りごとには、この場面ではほかにどのようなことが想定され、必



南信署署長室で金口次長の挨拶

〔名古屋事務所・南信署〕九月二十六

**林政記者クラブが国有林を視察
ニホンジカ被害対策などを説明**

要となるかなどについても、一つ一つ議論をしながら進行了ました。
特に、ヘリコプターによる上空調査については、二十四時間以内に飛行をすることを目標に、飛行航路、調査乗員等を山地災害対策班主導で署を交えて検討し、飛行調査後の結果公表までの一連の内容を確認しました。
さまざまな場面を想定して問題点を洗いだし、今後の非常時に備え、さらに対策等を強化をすることとしています。

一日目は、南信森林管理署で金口次長の挨拶、久保署長から管内概要などの説明の後、伊那市内の「諏訪形の猪垣跡」を視察しました。
猪垣は、江戸時代、イノシシやニホンジカから農作物への被害を防ぐために作られた柵を復元したもので、この地域が古くから野生動物の被害と闘ってきた痕跡を感慨深げに視察しました。

日、二十七日の両日、林政記者クラブ（中部森林管理局管内加盟者）三社から三名が、南信森林管理署管内で地域と連携して実施している鳥獣被害対策を中心とした国有林の取組みなどを視察しました。



猪垣跡の説明をする久保署長



復元された「諏訪形の猪垣跡」

次に中央アルプス千畳敷カールに移動し、今村駒ヶ根首席森林官から現地の概要、グリーン・サポート・スタッフによるパトロールの状況や、木曾森林ふれあい推進センターが行っている植生復元対策について説明を受けました。
標高二六〇〇mを超える現地は、秋の気配も近づき、一部、紅葉が始まっており、こうした下界からはかけ離れた場所であってもニホンジカの被害が迫っていることや、それに対し各種取組みの重要性を実感しました。
二日目は諏訪大社を訪問し、秋宮欄直



「鹿食免」の看板（拡大）

から、諏訪大社の概要、式年造営御柱大祭や鹿食免の説明を受けました。
鹿食免とは、肉食、殺生は罪悪として狩猟を忌み嫌う時代にも「慈悲と殺生は両立する」という諏訪さまの説で、狩猟の免罪符「鹿食免」として発行されてきたものです。



今村首席森林官から現地説明

その後、有賀下諏訪森林官の案内で「御柱の森」を視察しました。

「御柱の森」は、諏訪大社で七年毎、寅と申の年に御柱を建て替えるため、御柱の森づくり協議会と南信署では、「御柱の森づくりに関する協定」を締結して将来にわたり持続的にモミが供給できるための森林づくりを行っているもので、現地でシカ対策などの取り組みについても視察しました。

次に、国指定史跡「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」を視察しました。

遺跡は、縄文時代の黒曜石発掘現場で、現地では下諏訪町埋蔵文化センター館長から、発掘に至った経緯や普段見る



「鹿食免」について説明される秋宮禰宜



下諏訪町埋蔵文化センター館長から遺跡の説明



「御柱の森」を視察



谷澤森林技術指導員がくくりワナを実演

ことができなない発掘現場の説明があり、古代の人々が山に入り、黒曜石を石器として生活や狩猟の矢じり等に利用していた歴史に触れることができました。

最後に、谷澤森林技術指導官によるくくりワナ設置の実演による説明を受けて視察は終了しました。

今回の視察は、縄文時代から現代までの野生動物と人間との係わりと鳥獣被害をテーマとしてご案内しました。記者からは、日頃、見えない国有林の各種取り組みが理解でき「有意義であった」との感想も聞かれ無事に終了することができました。

**安城農林高校生が
国有林事業地を見学**

〔愛知所〕 九月十二日、岡崎市閼刈国有林等で安城農林高校二年生四十名が製品生産事業地の見学を行いました。

この見学会は、(公財)愛知県林業基

各地からのたより

中部森林管理局では、こうした機会を通じて、地域と連携した森林・文化財の保護、地域の要請に対して協力を行うなどの地域貢献に取り組み、その状況を今後も情報発信していきます。



星ヶ塔遺跡周辺のシカによる皮剥ぎ被害

金が「林業関係高校を対象に、先進的な林業等作業現場を見学させることで、森林・林業の重要性や林業就業についての普及啓発を行う」ことを目的として実施しているものです。

また、見学内容は安城農林高校から「高性能林業機械を使用している木材生産現場を見学したい」という要望を踏まえた内容としました。

当日はあいにくの天気で午前中は、愛知森林管理事務所会議室において、国有林の業務内容の紹介やDVDを活用した高性能林業機械の説明を行いました。



事務所会議室での座学の様子

午後からは天候も良くなり、圃場国有林で高性能林業機械による作業の見学を行いました。現場にはプロセッサ、ス



事業者からの説明の様子

ウィングヤード、フォワーダが配置されており、フォワーダの試走を見学するとともにオートチョーカーの自動フックによる脱着などを体験しました。

参加した生徒達は皆真剣に見学等を行い、中には、森林・林業、国有林という世界に興味を持ち昼休みも積極的に質問をおこなう者もいました。

後日、同校から、お礼と今回の内容を今後の教育活動に反映させていきたいとの手紙をいただきました。

こうした、見学会が関心の入り口となり、森林・林業の世界に興味を持つ生徒が増えることを期待しています。

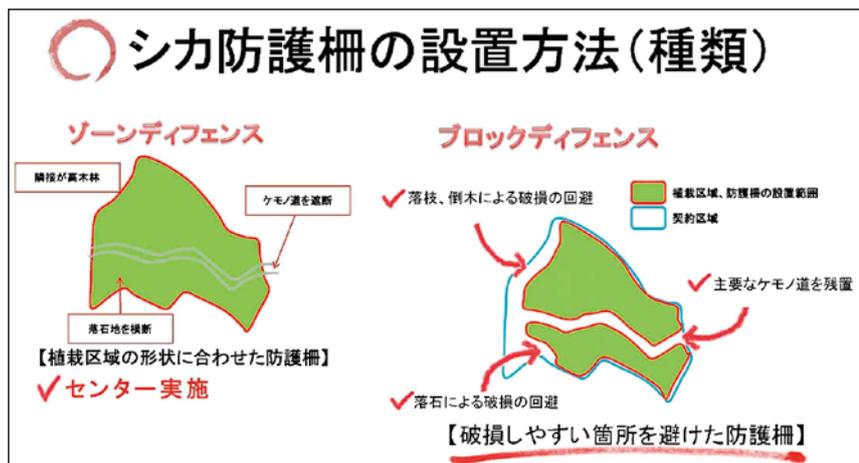


作業中の高性能林業機械（フォワーダ）

ニホンジカ被害対策に関する業務検討会に参加して

〔愛知所〕九月二十日、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター中部整備局主催のニホンジカ被害対策に関する業務検討会が静岡市において開催され、愛知県、各県（岐阜県・三重県・愛知県・静岡県）林業事業者、愛知森林管理事務所から総勢約四十名が参加しました。

午前中は室内において、森林整備センターにおいて実施した「ケモノ道を残置するシカ防護柵（ブロックディフェンス）の概要」と、森林総合研究所研究員から「シカ被害対策の現状と対策」についての講義を受講しました。午後からは、現地においてシカ防護柵（ブロック



ディフェンス）の視察を行いました。シカ防護柵については、現在は区域全体を囲む方法であるゾーンディフェンスが主流となっていますが、今回紹介されたブロックディフェンスは、①主要なケモノ道を存置、②落石等により破損しやすい箇所を避けて設置できる方法です。ゾーンディフェンスとのコスト比較では設置時には割高となるが、メンテナンス費用も含めた試算では安価となるとの報告がありました。

また、これまで防護柵破損の要因となっていた「ケモノ道の横断」、「網への潜り込み・乗っかり」なども「ケモノ道」を設置したことで被害が回避されたという報告や、残置したケモノ道を利用したワナによる捕獲との組み合わせも有効との報告もありました。

現在、ニホンジカ被害対策は農林業にとって喫緊の課題となっていますが、地域ごとの対策には限界があり、国・県・市町村等が連携し垣根を越えた広域的な対策が必要となっています。

今後このような機会を通じた情報交換等を行い、現地にマッチした防護対策



参加者全員で記念写真

と個体数管理のあり方を地域と連携し進めていきたいと考えています。

地元住民の方へ進捗状況を説明 濁川復旧治山工事で現場見学会

〔木曾署〕平成二十六年九月二十七日の御嶽山噴火から二年目を迎えるにあたり、平成二十六年から王滝村御岳国有林の濁川で施工中の治山工事現場の見学会を九月三日に、王滝村民のほか関係機関等から三十五名の参加のもと開催しました。

今年度から、土石流対策であるコンクリート谷止工二基を施工中で、生コン車等の工事車両が木曾町内から王滝村内をほぼ毎日のように通行することから、地元住民の方へ工事の進捗状況を説明する



御岳厩野林道洗い越しで視察の様子



現在施工中の濁川第64号谷止工の視察

とともに、現在の濁川の様子を視察していただきました。

当日参加者はマイクロバス二台に分乗し、同乗した治山担当から施工現場が遠望できる箇所です。概要や施工状況等の説明を行いました。幕岩展望台や御岳厩野林道洗い越しからは、長野県西部地震の災害復旧の現状や治山ダム群により噴火に伴う土石流が減勢された様子を視察し、その後、濁川第64号コンクリート谷止工施工地へ移動しました。

この施工地では、施工工程等の説明を行い、参加者からは丸太残存型枠を採用している意義や廻排水の状況等について質問が出されました。また、「完成後の現場視察もいいが、今回のような施工途

中の視察は施工方法等が分かり参考になる」との感想も寄せられました。

御嶽山噴火に伴う土石流対策工は、平成二十七年に木曾町三岳黒沢御岳国有林内に一基完成させ効果を発現させています。王滝村御岳国有林濁川で施工中の二基についても、地域の安全・安心の確保のため早期完成に向け取り組むこととしています。

南木曾町と合同植樹祭を開催

〔南木曾支署〕十月四日、当支署の北蘭国有林において、毎年恒例の南木曾町との合同植樹祭を開催しました。今回の会場は、今年七月の町議会による国有林視



開会式で挨拶する酒向支署長



みどりの少年団による植栽作業の様子

「地域の安全・安心に大きく貢献している国有林の森林整備や治山工事などを町民にもっと知ってもらう機会を増やしたい」との声に応えたもので、南木曾豪雨災害の際に土石流が発生したものの、既設の治山ダムにより地域への被害を防いでいた額付本谷としました。

当日は、林業関係者、町民、みどりの少年団の南木曾小学校六年生約百名の参加がありました。

開会式の主催者代表挨拶で、酒向支署長から、三年前の災害を受け昨年設置した谷止工を前に、人気がある南木曾岳の登山道沿いであることから表面に木材を貼り付け、自然景観に配慮した工法であることの紹介や、植樹祭を通じて森林の

機能と重要性への理解と、森づくり推進への協力をお願いしました。

続いてみどりの少年団を代表し、田中大輝君と青木桜子さんからは「これからも安心して暮らせるみどり豊かな環境を守り育てる」と、みどりの宣言などが行われ、式典を終了しました。

植樹は、谷止工近くの登山道沿いにイロハカエデ百本を植樹しました。みどりの少年団の植樹の様子や記念写真をドローンを使用して撮影したり、一般参加者の皆さんにハイキングコースを散策してもらうなどの企画も行われ、無事植樹



ドローンを使用した記念写真

祭を終了しました。

この植樹祭を通じて、南木曾町との協力連携がさらに強くなったと感じています。

「日本美しの森お薦め国有林」

「御岳自然休養林」での活動

〔岐阜署〕林野庁では平成二十九年度より「日本美しの森 お薦め国有林」として全国九十三カ所を選定し、山村地域における観光地域づくりの取組みを推進する事業が始まり、当署管内の御岳自然休養林がその一つとして選定されました。

御岳自然休養林は信仰の山として広く知られている御嶽山の岐阜県側山麓に位置し、亜高山帯針葉樹を主体とした天然林で、溪流には二百カ所以上あるといわれる滝を含んだ美しい景観が魅力です。また、休養林内には濁河温泉をはじめ、チャオ御岳スノーリゾート、高地トレーニング施設等が整備されており、四季を通じて様々な活動ができるレクリエーションの森となっています。

四月末、「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されて以降、地元の下呂市、飛騨小坂観光協会、濁河温泉管理組合、NPO法人飛騨小坂200滝、小坂町商工会等で「御嶽美しの森推進協議会」を発足し、外国の方を含めて多くの観光客に楽しんでいただくための滞在型観光地をめざし、それぞれの組織が各々できる



濁河温泉とトレーニングセンターの遠望

ことに取り組み、その内容を協議会で情報共有し、さらに、より良い活動に繋げる取組みを行っています。当署では、レクリエーションの森を快適に利用していただくため、今年度の事業として登山道の整備と多言語標記看板の整備を進めているところです。

また、このレクリエーションの森の整備について、九月二十七日、名古屋造林素材生産事業協会小坂支部が、「飛騨小坂おんたけパノラマウオーキング&ジョギング」のコース沿いと御嶽山を一望できる展望台の草刈りを、十月四日には名



作業当日、歩道を歩く金山小五年生を見守る整備参加者



草刈作業の様子

古屋林業土木協会青年部が、登山道の老朽化した木道修理などの整備を社会貢献活動として実施していただきました。補修された木道は、当日すぐに地元の下呂市金山小学校の五年生が御嶽宿泊研修の一環で利用しました。

御嶽山は三年前の噴火により入山者が落ち込んでいましたが、徐々に登山者や観光客が戻りつつあります。下呂市は今年、登山道整備のための調査を行い、来年以降、本格的に整備を行う予定となっています。このような中、岐阜県では、「日本美しの森 お薦め国有林」の事業を進めるとともに、地域の方々と協力して、外国の方も含めて多くの観光客に楽しんでもらえるレクリエーションの森となるように、これからも様々な取り組みを行う予定です。

「漁民の森林づくり活動」 漁業関係者による 森林整備を実施

【愛知所】十月三日、設楽町にある段戸国有林において「漁民の森林づくり活動」を実施しました。

この活動は「森林を守り育てることが三河湾の漁業振興につながる」として蒲郡市を中心とした漁業関係者が参集して、豊川・矢作川両水系の源流域の森林整備を継続的に行っており、今年で十六年目となります。

当日は、三谷漁業協同組合、蒲郡市漁協青年部連絡協議会、三谷水産高校、NPO法人穂の国森づくりの会、蒲郡市、愛知県東三河農林水産事務所と当所職員など約七十名が参加し、平成十四年にブナなどの広葉樹を植栽した森林におい



除伐作業中の参加者

て、植栽木の生長を妨げるシロモジ等を除伐する作業を実施しました。

また、この活動に先立ち三谷水産高校においては当所の職員を講師に、森林の有する公益的機能や森林と海のつながり（森林から海へ到達する水はプランクトンの栄養源となり、食物連鎖で豊かな漁業資源となる）等についての勉強会も行いました。

参加者から「森林の大切さがよくわかった」、「貴重な体験をすることができた」、「もっと作業をやりたいかった」、「船の上の作業より大変だった」との感想が出されていました。

当所としては、「海」と「森」の関係者が密接な関係を持った森林整備が今後継続できるように取り組むとともに、

◎平成30年次会計実施検査
11月13～17日
中部森林管理局管内
（富山署・愛知所・岐阜署・南信署・飛騨署・中信署・木曽署・北信署・局）

◎第二回森林管理署長等会議
11月1～2日
中部森林管理局

今回の活動に参加した方々から「国民参加の森林整備の必要性」等について情報発信していただくことを期待しているところです。



活動に参加した全員で記念写真



「南木曽支署柿其森林事務所」

森林官 仲沢祐二

柿其森林事務所は、長野県の南西部に位置する木曾郡南木曽町にあり、管轄する国有林野は、町内を流れる木曾川の右岸側にある柿其国有林、三殿向国有林、田立国有林のおよそ五、四〇〇畝で、南木曽町面積の約四分の一にあたります。管内の国有林は、ヒノキを主とした人工林が約六割、残りの約四割が木曽檜を主とした天然林になっています。天然林は、岐阜県境の保残帯を中心として、一部を県立公園にあたる「田立の滝風致探勝林」で構成されています。

柿其国有林には、「柿其溪谷」と言われる急峻な溪谷があり、数ある木曽路の溪谷の中でも特に美しいと言われ、深い



柿其川上流



「不動岩」より名古屋方面を望む

谷を埋めた花崗岩が美しい滝や瀬、淵を織りなす柿其川が流れています。国有林に入ると、切り立った地形に林道が整備されており、美しい溪谷を見下ろすことができますが、「カモシカ帰り」という名前がつくほど柿其川の下流域は急峻な地域です。事業は、下流域に比べれば穏やかな地形の上流域で実行しています。

田立国有林には、無数の滝を総称して「田立の滝」と呼ばれる溪谷があり、日本の滝百選にも認定されています。壮大な滝の流れは神秘的で、特に「天河滝」は高さが四〇メートルあり、かつての里人たちはこの「天河滝」を神聖視し、雨乞いの神事を奉る以外は登らなかつたそうです。滝の上流部には「不動岩」と呼ばれる露出した岩があり、岩上の展望台からは、よく晴れた日には遠く名古屋まで眺望できます。林道は露出した岩石地を通り、準平原を形成している上流域へ通じています。途中には、昭和初期に人力



素掘りのトンネル



遊歩道「天然公園」

で掘削したとみられる「素掘りのトンネル」があり、昔の苦勞がしのげられます。木曾川沿いの三殿向国有林は急峻な地形で構成されていることから、山地災害防止機能を重点的に發揮させるための管理経営を行っています。南木曽町を一望することができ「伊勢山」には、登山道も整備されており、管内の北側に位置する「柿其溪谷」から、岐阜県境にある

湿地帯の「天然公園」を抜け、南側に位置する「田立の滝風致探勝林」まで遊歩道も整備されており、毎年多くの方が訪れています。

当森林事務所は、森林官一名、森林技術員二名、行政専門員一名の四名で、境界管理、生産・造林などの請負監督、各種森林調査や巡視などを行っています。業務が多岐にわたることから、職員間で情報を共有し、共通の認識を持って業務を進めています。

今年度は雨が多く、七月の雨では林道法面の上部が大きく崩落し、一ヶ月近く林道が通行できない状態が続き、各種事業も休止することとなりました。急峻な地形で、足場の悪い箇所での業務となることから、足元に気をつけ、慎重な行動を心掛けています。これからの季節は気温も下がり、作業条件も厳しくなっていくことから、安全対策を遵守し、無事故・無災害で業務を進めていきたいと考えています。



柿其森林事務所職員（右端）が筆者



松本市にある松本森林事務所管内の、松本城と美ヶ原高原を紹介します。

◆松本城
文禄（一五九三）四年）時代に建てられた五重六階の天守を中心に、四百年の風雪に耐え、戦国時代の優れた築城技術

ご当地
自慢

松本城と美ヶ原高原を

55

松本森林事務所



を今に伝えていきます。建造された天守は国宝に指定され、城跡は国の史跡に指定されています。

松本城と呼ばれる前は深志城ふかしじょうと言っていたが、市民から別名烏城からすじょうとも呼ばれています。

天守閣では、戦国時代の主力武器であった鉄砲戦への様々な備えを見ることが出来ます。厚い壁には矢狭間・鉄砲狭間があわせて二十五カ所あり、天守閣などの一階には石落としが設けられています。石落としは石垣を登ってくる敵を防ぐ工夫で、狭間と同じように鉄砲を使っ



ての攻撃も可能な武備でした。

天守一階ではたくさんの柱があり、建材はツガ、檜、松などが使われています。

松本城からは日本アルプスが眺められ絶妙な調和を生み出しています。

また、四季を通じて各種イベントが開催されています。

◎アクセス

○長野自動車道 松本ICから車で約十五分

○JＲ篠ノ井線「松本駅」下車徒歩約十五分

◆美ヶ原高原

本州のほぼ中央に位置し、松本市の東に広がる標高二、〇〇〇mの雄大な高原です。北・南・中央アルプス、八ヶ岳、浅間山、富士山までもが見渡せる三六〇度の大パノラマは多くの人を魅了しています。四季折々の表情を見せ、レンゲツツジやヤナギランなど美しい花も見られます。

昨年からは、美ヶ原高原直行バスが「松本駅アルプス口」から「美ヶ原自然保護センター」まで一日二往復運行を始めました。

